

Blackboard@Tamagawa 10年間の総括

01

eエデュケーションセンター長 橋本順一

◆はじめに

本学のeエデュケーションの取り組みを紹介してきたこのe-Education News Letterも、10年を経過しました。そしてこの10年間は、情報技術を活用した教育の貴重な実践事例が蓄積されてきた時間でもあります。ひとつの節目となる今回、今までの取り組みをたどり、これからの新たな段階に向けた総括をしたいと思います。



◆Blackboard@Tamagawaの導入

玉川大学は、まだeラーニングという言葉も珍しかった1998年から情報技術の教育への活用の実践を始めました。「Global Tamagawa 10-year Challenge」(図1)と名付けられた10年計画によって、情報環境整備から教育活用までが段階的に進められてきました。まず女

用者が一部学部に限られ、IT投資の効率化の課題が顕著になりました。そこで、大学のすべての学生と教員が利用できる全学統一の学修支援システムを実現するために調査、試行、予算化、学内コンセンサスなどの十分な準備を経て、2004年「Blackboard@Tamagawa」をオープンしました。この時に掲げた本学のeラーニングのポリシーは「Blended Learning」です。高等教育は、社会からのデマンドや情勢変化、技術の発達などにより時とともに変化が要求される一方、普遍的な人間育成の場でもあります。どれほどICT技術が発達してもコンピュータ画面の中だけで教育が完結できるわけではありません。いままでのFace to Faceの教育の良さ面と、いつでも、どこでも学べるeラーニングのメリットを合わせ、教育を全体的により高度化させる「Blended Learning」は、本学の教育信条を実現する基本の考え方です。しかし、高度なeラーニング環境であっても一部の特別な授業での利用だけでは意味はありません。一時

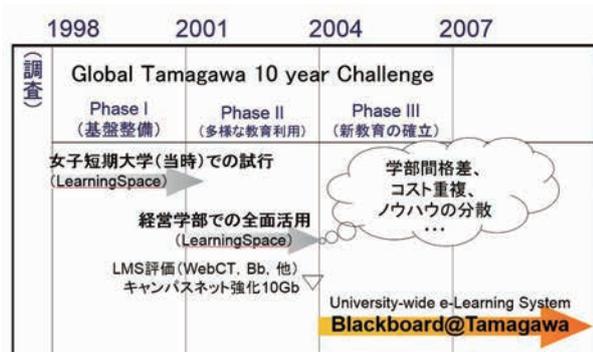


図1.Global Tamagawa 10-Year Challenge

子短期大学(当時)においてパソコンとネットワークを利用した実験的な教育がスタートし、2001年に新設された経営学部において学部全体での利用へと広がりました。これらの実践において多くの成果が得られましたが、一方、利

的な実験ではなく、長期的に安定した環境で、全学的規模でより広く深く活用してこそ教育の高度化と言えるからです。学修支援システムは2004年当時いくつかの選択肢がありましたが、全学展開するうえでもっとも重視した点は「すべての教員が特別なスキルを必要とせずにeラーニングを実践できること」にあります。学部によらず全学生がeラーニングのメリットを得るためには、なるべく多くの教員ができるだけ少ない負担で、できるところから徐々に始められ経験とともに利用拡大ができることが必要です。Blackboard@Tamagawaは、当時から世界的トップシェアであった米国Blackboard社のBlackboard Learning Systemをベースとしました。マルチ言語対応で様々な学修支援機能を利用できることだけでなく、簡単な教材であればワープロ文書作成の要領で掲載が可能なのが選択の理由でした。

◆ Bbの利用拡大へ

2004年に始まった全学的なeラーニングの展開によって、学内の活用は年とともに広がりました。最新の集計では、大学全体のBlackboard活用率（開講されている授業のうちBlackboardでコースが提供されている授業の割合）は53.4%となり、専任教員の実に77.3%がBlackboardを利用しているところまで拡大しています（非常勤教員を含めた全教員では57.9%）（図2）。eラーニングが一般化

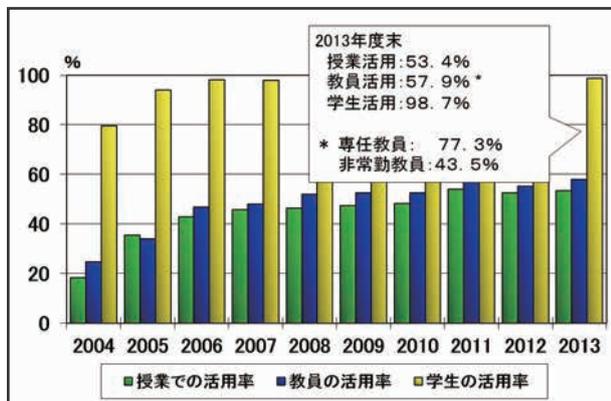


図2.Bb活用率の推移

した現在においても、これだけ広範囲に学内で活用されている大学は他に例を見ません。同時

に、学内のネットワークインフラの整備、増強、学生一人ずつがパソコンを所持するMyPCの展開、そしてICTを活用した教育をあらゆる角度から支援する組織が本学の高い活用率を支えてきました。

◆ News Letter を活用した事例報告

一般に、eラーニングにおける教育的効果は「デジタル教材による繰り返し学習効果」、「理解度レベルに応じた学習提供」、「欠席学生へのケア」、「予習の徹底、授業時間の効率的活用」などがあげられます。また、教員が授業を運営する上において「授業全体を客観視できる」、「教材見直し、再・応用利用、共有化」、「所属を超えた教員グループの情報交換」、「配布資料のペーパーレス化」、「学生への情報伝達の徹底」といったメリットがあります。しかし、これらの効果、メリットは、それぞれの授業方針、方法、教員の教育理念によって最適化されるべきです。実践事例を参考に、自らの授業に適用することで最大効果をあげることができます。eエデュケーションセンターでは、2004年度からe-Education News Letterを年間3～4回発行してきました。ここには毎号学内の実践事例や関連情報を掲載しています（図3）。この10

2005年	経営学部 文学部 農学部	2010年	文学部 経営学部 芸術学部 農学部
2006年	工学部 教育学部 芸術学部	2011年	文学部
2007年	農学部 リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学部 農学部	2012年	教学部 eエデュケーション センター
2008年	経営学部 工学部 経営学部 教育学部	2013年	大学共通(自習教材) リベラルアーツ学部 芸術学部
2009年	工学部 教育学部 脳科学研究所 文学部	2014年	eエデュケーション センター ELFセンター

図3.Bb活用事例の報告実績

年間で30号を超えるなかで紹介してきた様々な事例はとても貴重な蓄積です。ここで、これまで掲載した事例を集約して紹介します（図4）。どれも、より教育効果が上がるよう多様な利活用がなされています。これらを大別す

シーン	目的・効果等	方法
ゼミ	議論の深掘り	資料掲載+ディスカッション
ゼミ	学生の自主的な情報共有	ファイル共有、情報共有
非常勤利用	資料・教材保管庫	資料・教材掲載
講義授業	習熟度把握	毎回ミニレポート・テスト
短期留学	必修授業の配信	動画配信+資料
講義授業	1単位授業での予復習	補完・補助資料、動画配信
オムニバス講義	各回の学びの深掘り	関連資料、補完資料
演習授業	英文読解力	音声ファイル掲載
演習授業	文献輪読	理解のヒントとなる資料掲載
英語教育	総合的な英語力	音声+英文献、小テスト

シーン	目的・効果等	方法
教員養成	教員の自覚養成	教員資質を投稿させる
実験演習	実験手順の安全な理解	動画+手順の教材コンテンツ
必修英語	レベル差の吸収	音声クリップ、自己採点試験
就職指導	資料の一元管理	求人票、企業情報の共有
講義授業	基礎知識の定着	用語チェック、クイズ、応用
体育指導法	児童指導の実際理解	児童指導のビデオ掲載
委員会活動	情報共有、意思疎通	グループ設置、資料共有
一年次教育	議論力の養成	ディスカッション、意見交換
共通講義	授業参加意識維持	授業テーマにまつわる問掛け
英語教育	身近な英語の気付き	メニュー等英語モードで利用

シーン	目的・効果等	方法
英語演習	学生の自己チェック	演習をビデオ撮影、掲載
国際理解	国際情勢と背景の理解	海外ニュース視聴+講義解説
法律の理解	広範な知識の習得	自動採点テスト+Feedback
補講	ウェブベースの補講	動画+論文読解+レポート
海外提携校授業	複数教員による授業共有	相互の教材の共有、意思疎通
講義授業	発言の活性化	BBS発言の採用
コミュニティ	学部全学生+全教員活動	アナウンスや情報共有
基礎知識自習	基礎知識を自ら学ぶ	自習教材(情報倫理)
基礎知識自習	基礎知識を自ら学ぶ	教科書+オンライン検定試験

図 4. 活用事例の掲載実績

ると、大きく3つのメリットに集約できます。すなわち、現実的な問題解決（多人数の課題回収、ペーパーレス化など）、授業時間外コミュニケーションの活性化（学生相互の学修展開、アナウンスによる情報伝達など）、学生の理解促進・レベル差吸収（映像・画像による理解度の助け、自習、繰り返し学習など）です。個々の事例を見ると、それぞれは、それまでの方法の課題を解決する、ないしは拡張するためのアイデアを実現したものであり、特殊なものではなく、創意工夫によって実現されています。これらの事例は、他の授業などにも応用できるでしょう。

◆更なる教育効果を生み出すために

10年前に発行した e-Education News Letter の第1号には小原芳明学長の巻頭言として「黒板と白墨が発明され教育の進め方に変化が起こったように、ブラックボードを普及させるこ

とで教育の進め方に革新が起こるのではないかと期待している。」とあります。10年間で広く普及した Blackboard@Tamagawa は、もはや教室に当たり前のように設置されている黒板のように教育インフラとしてすっかり定着し、Face to Face の教育をさらに拡張した教育が日々おこなわれています。そして、2015年4月、新しい教育拠点である「大学教育棟 2014」が開館し、本学の教育も新たなステージに立ちます。今まで別々であった教学部、学士課程教育センター、eエデュケーションセンターはひとつに組織化され、教育方針の策定とその運用支援が統合された相乗効果が期待されます。全学統一のeエデュケーションの取り組みが始まってから蓄積してきた実践事例やサポート実績も、アクティブ・ラーニングとディープ・ラーニング、反転学修など新たな潮流と相乗効果をあげ、さらなる教育効果を実現するものと期待しています。

◆ NewsLetter アーカイブ

なお、これまでの e-Education News Letter はすべてデジタル化され学内外に公開されていますので、いつでも読むことができます。各号で紹介されている貴重な事例の蓄積の中には、多くの授業改善のヒントが含まれています。ぜひ事例の詳細などを参考にしてください（図5）。

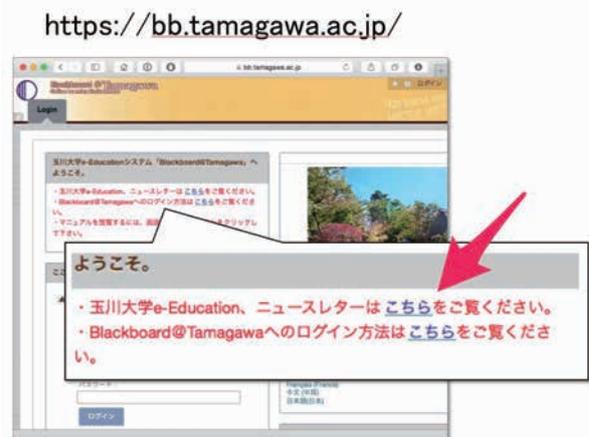


図 5. e-Education News Letter の入手方法

IT サポートデスク 移転について

皆様に長らくご愛顧いただいております IT サポートデスクですが、平成 27 年 4 月 1 日より、新校舎の「大学教育棟 2014」3 階「サポート・デスク」に移転いたします。

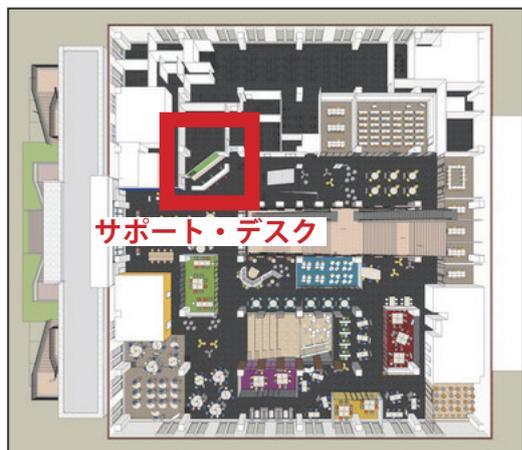


図 6. 大学教育棟 2014 3 階俯瞰図 (サポート・デスク)



図 7. サポート・デスク (イメージ)

従前と変わらないサービス体制で学生・教職員の皆様をサポートいたします。また、ラーニングコモンズエリアを利用し、学生・教職員の IT 関連の個別対応も行っていきたいと考えています。

今後とも IT サポートデスクをご愛顧いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

IT サポートデスク

場所

大学教育棟 2014 3F サポート・デスク

受付

授業日の 9:00 ~ 17:00

(専任スタッフは 9:30 ~ 17:00)

サポート内容

- ・ MyPC 推奨モデルノートパソコンの修理受付
- ・ パソコンの操作方法に関する指導
- ・ その他、IT に関連する質問への対応
- ・ 主催ガイダンス、セミナーの開催

◆ 学生スタッフ (COSMOS e-STAFF)

IT サポートデスクでは、来室した学生への初期対応やソフトウェアの操作説明など、学生同士だからこぞできるサポート (ピア・サポート) の一環として、学生スタッフ (COSMOS e-STAFF) を採用しています。

授業のない時間帯に IT サポートデスクの業務を依頼しており、授業の内容に関連する PC 操作など、専任スタッフに尋ねづらいような質問も学生スタッフが丁寧に対応しています。授業などにおいてパソコンの操作等でお困りの学生がおりましたら、ぜひお気軽に IT サポートデスクを訪ねよう、ご指示をお願いいたします。

サポート・デスクにおきましても、学生スタッフは従来と同様の内容でサポートを行います。



図 8. 学生スタッフ (COSMOS e-STAFF)



図 9. 学生スタッフサポート場面

◆ IT サポートデスク移転に伴う開室・閉室のお知らせ

前述の通り、ITサポートデスクは大学教育棟2014に移転いたします。その移転作業のため、開室・閉室を下記の通りとさせていただきます。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

2015年3月						
日	月	火	水	木	金	土
1 閉室	2	3	4	5	6	7 閉室
8 閉室	9	10	11	12	13	14 閉室
15 閉室	16	17	18	19	20	21 閉室
22 閉室	23	24	25	26	27	28 閉室
29 閉室	30 閉室	31 閉室				

※左記日程以外にも急な事情により閉室する場合があります。

※状況により対応できない内容がある場合があります。

※視聴覚センター 204 でのサポートは 3月27日（金）となります。

表 1. IT サポートデスク開室スケジュール

◆ 平成 27 年度 4 月の学生向け講習会の予定について

例年通り年度初めは「MyPC 講習会」を開催します。この講習会は新入生を対象にした講習会で Blackboard@Tamagawa や MyPC プリンタを使うために必要な準備、操作を学習することができます。在学期間中必須のスキルになりますので、1 年生担当の先生方におかれましては担当学生への講習会参加を呼び掛けていただけますよう、よろしくお願いいたします。

なお、詳細は学内掲示板やサイネージ（大学教育棟 2014）にて案内します。

< MyPC 講習会 開催概要 >

日程…右表参照

対象…全学部全学科 1 年生

会場…大学教育棟 2014（詳細は掲示にて）

持ち物…MyPC、筆記用具

講習会内容…

- ① MyPC ネットワークへの接続
- ② 認証ページでの認証作業
- ③ 初期パスワード変更
- ④ MyPC プリンタ使用準備
- ⑤ 学生 Web メール転送設定

2015年4月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13 MyPC	14	15 MyPC	16 MyPC	17	18
19	20 MyPC	21	22 MyPC	23 MyPC	24	25
26	27 MyPC	28	29 MyPC	30 MyPC		

時間…各日とも 17:10 ~ 19:00

表 2. MyPC 講習会開催スケジュール

※以後、サポート・デスク主催の Microsoft Office 講習会や IT 資格説明会など、学生の IT スキル向上につながる講習会や説明会を開催します。詳細は学内掲示、サイネージにて行っていますので、お時間のある時にご確認くださいませよう、よろしくお願いいたします。

※上記の内容、およびそれ以外の ICT 関連のことにつきましてご不明な点がございましたら、IT サポートデスク（内線：8687 / support@tamagawa.ac.jp）まで、ご連絡くださいますよう、よろしくお願いいたします。

平成 27 年度 「MyPC 推奨モデル」 及び「芸術学部 推奨モデル」について

◆平成 27 年度の「MyPC 推奨モデル」及び「芸術学部推奨モデル」についてご連絡いたします。

MyPC 推奨モデル

Panasonic Let's note LX4 最新モデル

次年度の MyPC 推奨モデルはパナソニックに決定しました。4 年間安心して使えるスペックや堅牢性、充実の保証・保険内容、修理時の迅速な対応など、自信をもってお勧めできるモデルとなっております。

マルチタスクを可能とする 14 型大画面の操作感、わずか約 1.3kg の質量で携帯性に優れています。さらに、2015 年 2 月時点の最新 CPU 搭載のモバイル PC です。

先生方も次年度の私費・研究費での購入が可能です。ご案内は 4 月下旬以降の Notes 掲示板にて掲載を予定しております。



図 10. Let's note LX 4 最新モデル

主な仕様

OS: Windows 8.1 Update
CPU: インテル Core i5-5200U
2015 年 2 月時点の最新 CPU 搭載
HDD: 500GB
液晶: 14.0 型 HD + (タッチ未搭載)
バッテリー駆動時間: 約 7.5 時間
(JEITA2.0)

質量: 約 1.3kg

芸術学部推奨モデル

Apple MacBook Pro

芸術学部推奨モデルでは、Intel Core i5 プロセッサが搭載されており、処理能力だけでなくグラフィック能力も大幅に向上しています。さらに、4GB のメモリが標準で内蔵され、クリエイティブソフトの操作に優れています。

また、保証面に関しても 4 年間のメーカー保証と動産総合保険が付帯しており、安心して学生生活を過ごすことができるモデルとなっております。



図 11. MacBook Pro

主な仕様

OS: OS X Yosemite
CPU: インテル Core i5 (2.5GHz/2 コア)
HDD: 500GB
液晶: 13 型
バッテリー駆動時間: 約 7 時間
質量: 約 2.0kg

編集後記

本号をもちまして、e-Education NewsLetter は休刊となります。2005 年の発行より 10 年間、Blackboard@Tamagawa の利用促進を目的に発行してまいりましたが、その目的は一定の成果をもって達成できたと自負しております。

今後は紙面での発行は予定しておりませんが、何らかの方法で皆様に Blackboard@Tamagawa の活用法についてご報告できるよう検討しております。

なお、Blackboard@Tamagawa の管理・運用は、教育学部教育修支援課が引き続き担当いたします。

長らくのご愛読、誠にありがとうございました。この場を借りまして篤く御礼申し上げます。

e-Education NewsLetter 2014 Vol.3

2015 年 3 月発行

玉川大学

e エデュケーションセンター

東京都町田市玉川学園 6-1-1

Tel : 042-739-8820

Fax : 042-739-8825

e メール : bbhelp@tamagawa.ac.jp